

再 評 価 調 査 書

I 事業概要						
事業名	農業農村整備事業（水環境整備事業）					
地区名	萱津地区					
事業箇所	あま市上萱津 外					
事業のあらまし	<p>本地区はあま市東部に位置する萱津地域にある基幹農業用排水路の上部に親水施設や管理用の遊歩道等を整備するものである。</p> <p>基幹農業用排水路である萱津井筋は名古屋市近郊にありながら、周辺には豊かな自然環境が残されていて、農業用排水路としての本来の機能とともに、良好な自然景観や、地域の人々にやすらぎを提供する場としてかけがえのない地域資源となっていた。</p> <p>しかしながら、萱津分水路として用水をパイプライン化し、萱津井筋である排水を暗渠化（ボックスカルバート化）したことにより、以前の水路が現在では埋め立てられた。埋め立てられた水路の敷地はフェンスで囲まれ、立ち入り禁止となり未利用地となっているため、農村環境の荒廃が進み良好な農村景観が失われてしまった。また、水路敷地の上部利用の要望は多く、水路沿いには地域の防災拠点である上萱津コミュニティ防災センターがあり緊急時の避難路を兼ねた遊歩道が強く望まれている。</p> <p>そこで、本事業にて萱津分水路・萱津井筋の親水施設や遊歩道等を整備することにより、適切な保全・管理を図るとともに、地域住民の自然と触れあい、潤いと安らぎを提供する場としての利用を図ることを目的として、2013年度から水環境整備事業を実施し、2024年度に完了する予定である。</p>					
事業目標	【達成（主要）目標】 農業水利施設及び農村環境の保全を図り、豊かで潤いのある生活環境を提供する。					
計画変更の推移		事前評価時 (2012年度)	再評価時 (1回目) (2017年度)	再評価時 (2回目) (2022年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2013～2018	2013～2023	2013～2024	関係機関との調整に伴う延長	
	事業費（億円）	3.2	4.6	4.8		
	経費内訳	工事費	3.0	4.2	4.4	労務資材費の増 (2017単価→ 2022単価)
		用補費	0.0	0.1	0.1	
その他		0.2	0.3	0.3		
事業内容	親水景観保全施設 1式 ・せせらぎ水路等 利用保全施設1式 ・遊歩道1,090m等	親水景観保全施設 1式 ・せせらぎ水路等 利用保全施設1式 ・遊歩道1,090m等	親水景観保全施設 1式 ・せせらぎ水路等 利用保全施設1式 ・遊歩道1,090m等			

II 評価

①事業の必要性の変化

1) 必要性
の変化

【事前評価時の状況】

萱津分水路・萱津井筋の親水施設や管理用の遊歩道等の整備に対する地元の要請に応え、農村景観に配慮した整備をし、適切な保全・管理を図るとともに、地域住民の自然と触れあい、潤いと安らぎを提供する場としての利用を図る必要がある。

【再評価時の状況】

計画施設は依然として住民から求められており、周辺環境に大きな変化は見られず、整備の必要性は事業採択時とほぼ同程度と考えられる。

【変動要因の分析】

周辺環境についてほとんど変化はなく、事業の必要性について変化はない。

判定

B

A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。

B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。

C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。

※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。

【理由】

周辺環境が大きく変化していないため。

②事業の進捗状況及び見込み

1) 進捗
状況

【事業計画及び実績】

		2013	~	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
工種 区分	調査設計	←→										
	用地補償										←→	
	工事											
	・親水景観保 全施設	←									→	
	・利用保全施 設	←									→	
事業費 (億円)	前回計画	1.8		2.0			0.8				4.6	
	実績	1.8		2.3							4.1	
	今回計画	1.8		2.3			0.7				4.8	

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画 【①】	実績 【②】	達成状況(%) 【②÷①】	計画 【③】	進捗状況(%) 【②÷③】
遊歩道(km)	1.1	0.8	72.7%	1.1	72.7%
事業費(億円)	4.6	4.1	89.1%	4.8	85.4%
工事費	4.2	3.8	90.5%	4.4	86.4%
用地補償費	0.1	0.0	0.0%	0.1	0.0%
その他	0.3	0.2	66.6%	0.3	66.7%

【施工済みの内容】

遊歩道 765m

2) 未着手 又は長期化の理由	隣接地の開発計画と工事時期の調整を行った結果、事業工期の延長をした。	
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 なし。</p> <p>【今後の見込み】 今後、予算確保に努めながら事業進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。</p>	
判定	B	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>
		<p>【理由】 今後、阻害要因もなく計画通りの完成が見込まれるため。</p>
III 対応方針		
継続	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。</p> <p>継続：上記以外のもの。</p>	
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容		
<p>■対象（事業完了後5年目） □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理状況 ・施設の利用状況 		